

研究テーマ：

二次元多重領域内における構造安定な非圧縮流れの木表現の可視化手法

背景：

流体力学は、気体や液体の運動について取り扱う力学の主要な研究分野である。流体力学の歴史は古く、この学問が確立される以前から人々の生活に即したものとして発展してきた。近年では、コンピュータの発達により流体方程式から数値解を求め流れを精密に計算することが可能となった。この手法は数値解析と呼ばれ、事故や災害などの実験不可能な課題も計算できる利点を持った近年の主要な流体力学の解析手法である。

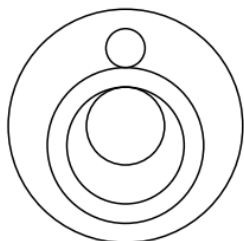
目的：

二次元流れの木表現から図への自動変換

先週からの進捗：

簡単な図の描画パターン (b++,b-+,b--,b+-,a+,a-) インタープリタパターンに則り自動的に描画することが可能になった

例 入力 $a0(\text{cons}(a+(b++(1, b+- (1, 1))),n))$



(a0, 矢印表記なし)

問題点： 同じ深さに存在する子の配置方法

例 $a0(\text{cons}(a+(b++(1, 1)),\text{cons}(a+(b++(1, 1)),n))$

現状 例のような図を作成すると2つの b++ の描画が重なってしまう。

解決策 cons の部分で描画する際の座標を変更することができるか

今後の計画：

引き続きインタープリタパターンに則った実装プログラムを書いていく
(流れの向きや初期構造を含めて)

子を不特定多数持つ場合 (Cons で連結していく場合) の描画法 11/5